

6.5 教育の質の向上

進捗状況報告

(1) 複数教員による博士論文の作成指導を主な目的とする「共同演習」では、2007年度、2名（博士課程後期課程）の履修があった。2名とも本研究科主催の「経済学ワークショップ2007」（2008年3月）において報告し、学外教員からコメントを受けた。また、2007年度においても、「夏季研究会」や「ランチタイムワークショップ」において大学院生による研究会を定期的に開催した。加えて、他大学院生など学外の若手研究者や本学若手教員によるセミナーである「拡大ワークショップ」や「経済学奨励セミナー」では、大学院生に参加と報告を促し、プレゼンテーション能力の向上および研究上の刺激と討論する機会を増やすよう取り組んできた。そして、2007年度では特に、上記「経済学ワークショップ2007」を4日間開催し、本学大学院生（7名）と他大学院生（8名）の報告に対して、他大学教員（7名）も参加し、討論に加わった（全参加者数56名）。今後、「夏季研究会」に加え、研究科主催で「経済学ワークショップ」を定期的に開催することが決まった。

(2) 2007年度においても、博士前期課程の大学院開講科目のシラバスを研究科ホームページに掲載し、シラバスにそった授業をするよう努力した。また、大学院学生への「授業評価アンケート」を実施し、授業方法の改善に役立てる取り組みが行われた。ただ、院生数の問題から回収されるアンケート数が少なく、その実効性を検討する必要があることがわかった。

(3) 学内第三者評価を受け、2007年度末に「年次研究計画書・報告書」および「年次研究指導計画書・報告書」について検討され、2008年度中にその具体案を作成し、2009年度から実施する方向で決まった。

学内第三者評価

2003年度に設定した目標を達成するために、「共同演習」の実現と「経済学ワークショップ2007」の開催と定例化、シラバスにそった授業と授業評価の実施、研究と研究指導の進行管理ともいえる「年次研究計画書・報告書」・「年次研究指導計画書・報告書」の作成とそれらの2009年度からの実施、など着実に施策が着手されその成果も現れている。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
他大学教員・大学院生も相当数参加した「経済学ワークショップ2007」の活動は高く評価できる。
学生数が多くない場合、授業評価アンケートの実施にはある程度困難な問題があるが、何らかの工夫によって信頼度の高いデータが得られるように努力が望まれる。